

平成20年2月26日

北米ハンドメイド展参観、米国業界団体・業界紙社、小売店調査報告

2月7日から13日の日程で米国を訪問し、今回で第4回目となる北米ハンドメイド自転車展を参観したほか、米国の業界団体・業界紙社及び訪問都市における有力小売店を訪問し市況の聞き取りを行ってきたので報告する。

1. 訪問先

- ・第4回北米ハンドメイド自転車展、オレゴン州ポートランド
- ・米国自転車小売協会（NBDA）・業界紙BRAIN社、カリフォルニア州ラグナヒルズ
- ・小売店：オレゴン州ポートランド1店、カリフォルニア州ロサンゼルス近郊2店

2. 報告の概要

はじめに今回で第4回目となる北米ハンドメイド自転車展を参観した。これまでで最も多くの出展社及び参観者数を集め、展示会としては極めて盛況であった。日本からの参観者もかなり見受けられ、最高級分野のハンドメイド自転車の動向を調べに来たという人のほか、中には来年以降の出展を検討するというフレームビルダーの方もいた。ただしハンドメイド自転車そのものの数がそれほど急増するわけではないので、展示会としてはこれが最大規模であろうという声もあった。

ついで、米国自転車業界紙BRAIN社を訪問し、ここで同紙編集者のほか米国自転車小売協会（NBDA）の役員とも面談し、最近の市況について聞き取りを行った。米国経済に対する懸念が出てきてはいるものの、今のところ米国の自転車販売、特に専門店での販売には大きな影響は出ていない模様であった。

この他、訪問都市で自転車専門店の見学を行った。オレゴン州ポートランドでは、前回ワシントン州シアトルで開催されたNBDAセミナーで発表を行っていた有力小売店を訪問した。ロサンゼルス近郊の小売店も2店訪問したが、日曜日に訪問したためか、2店とも来店者が大変多いことが印象的であった。これらの他、時間の合間を見つけ、自転車道なども見学した。

3. 北米ハンドメイド自転車展について

3-1 展示会の概況

展示会の名称：第4回北米ハンドメイド自転車展

開催場所：オレゴン州ポートランド、オレゴンコンベンションセンター

開催期間：2007年2月8日～10日

初日はビジネスデイ、2日目以降は一般公開

出展企業数：152社185小間、 米国のほか海外5ヵ国から参加

総入場者数：6,800人強

3-2 展示会の様子

この展示会は今回で第4回目となる、ハンドメイド自転車と部品・付属品、関連出版社に焦点を絞った展示会である。展示会主催者のドン・ウォーカー氏自身もフレームビルダーである。同氏によれば、インターバイク展は個人経営のフレームビルダーにとっては、規模が大きすぎ、また経費も掛かるので参加が難しい。このような人たちのためのマーケティングの機会が全くないため、自らこの展示会を立ち上げた、そうである。インターバイク展は、その規模のためどうしても小さいフレームビルダーは埋没してしまう、それを打破するためフレームビルダー達が集まって、自ら発信しようということが動機だそうだ。最初は誰かこのような企画の展示会を主催してくれる人や企業がないか捜していたが、見つからないので自らこの展示会を立ち上げた、という話である。



主催者のドン・ウォーカー氏

今回はオレゴン州ポートランドで開催された。前回と前々回は北カリフォルニアのサンノゼで開催されていて、開催地の評判は悪くないように聞いていた。

ポートランドがしっかりとした自転車交通政策を持っていること、また開催地の誘致で多少政治的な思惑も働いたことがポートランドでの開催に至った経緯のようである。オレゴンコンベンションセンターは米国内でも著名な有力展示会場の一つであり、展示会の開催環境としては申し分なかった。



オレゴンコンベンションセンター外観

初日はビジネスデイとされ、業界関係者のみが入場できた。静かな雰囲気の中で商談が行われ、動向調査にも適していた。2日目以降は一般公開されたが、大変多くの入場者が訪れ、通路は人で埋まるほどの状況になり驚いた。展示会事務局によると一次入場制限したそうである。



二日目の一般公開日の会場内の様子

出展物の多くは、手作りの高級自転車で、ラグ付フレームのものが多く見受けられた。シングルスピード車もここでは数多く出展されていた。完成車のほかフレーム単体も多く見られたほか、ラグの専門メーカーなども出展していた。完成車の一部にはN J Sマーク入りの部品も取り付けられていた。N J Sマークはこの分野では高く評価されており、同じ会社の部品でもN J Sマークがついているものは、ついていないものに比べて値段が高くなるという状況なので、ブランドと同じ効果がある、という話も聞いた。出展社の何人かに話を聞いたが、完成車の価格は何万ドルもするといっても、それほど儲かるわけではない、手作りの米国製ということに対するこだわりが大変強く、哲学をもってこの仕事を続けている人が多い、そうである。また主催者のドン・ウォーカー氏によれば、米国では独立志向が強まっているので、新たにビルダーになる人が増えており、それに伴いハンドメイド自転車の市場も拡大傾向にあるとの話であった。



ドン・ウォーカー氏の製品

3-3 日本でも高まる注目

この展示会は日本でも注目度が高まっているようで、日本からの来場者も多く見受けられた。昨年もこの展示会に来たという日本のショップの人に話を聞いたところ、昨年まではこれほど多くの日本人はいなかったそうである。日本でも高級車市場が活性化する兆しにあるので、特に最高級市場を取り扱っている日本のショップの人たちは、米国のハイエンド市場の動向を調べるにはこの展示会は絶好の機会になっているようであった。更にこの人によれば、米国の流れはしっかりと押さえた上で、一方で日本の特徴を出して行きたいという気持ちもあり、それが世界に通用するか試してみたいとも考えていると話されていた。

また来年の出展の可能性を探りに来たという日本のフレームビルダーの方にも話を聞くことができた。この人によると、顧客がこの展示会に沢山来ており、インターバイクにはもう行かなくてもいいようにも感じる、これだけ規模が大きくなったので、インターバイクにも影響が出るかもしれない、と話されていた。

また日本の自転車専門商社の方からも話を伺う事ができた。この人によれば、展示会の規模は大きくなったが、ハンドメイド自転車の市場がそれほど急拡大するわけではなく、またビルダーの数自体も同様に急増するわけではないので、

これ以上この展示会が大きくなることはないのではないか、これが規模としては最大だと思う、開催場所も日本から遠いところになると日本からは参加しにくくなるし、米国のフレームビルダーもカリフォルニア州が一番多いので、他の中西部地区や東部地区に移ると参加しにくくなると思う、と話されていた。またインターバイクは、米国の自転車専門ディーラー向けの展示会という明らかな位置付けがあり、業界・産業の展示会であり、この展示会とは位置付けが異なる、とのご意見も聞くことができた。

3-4 展示会の総括

展示会事務局によると、今回の出展企業数は152社、小間数は185小間、このうち米国の出展社が145社、海外からはカナダ、スロバキア、ドイツ、イタリア、オーストラリアから参加者があった。3日間の総入場者数は6,800人強であった。

次回は2009年2月27日から3月1日の3日間、インディアナ州インディアナポリスで開催されることが最終日に発表された。ポートランドでの開催は今回のみで、来年は中西部インディアナ州での開催となる。

4. 米国自転車小売協会（NBDA）・業界紙BRAIN社の訪問

訪問日 : 2008年2月11日

訪問場所 : カリフォルニア州ラグナヒルズ BRAIN社事務所



業界紙BRAIN社が入っている建物

米国の自転車専門店市況について聞き取りを行ったが、最近の米国経済の減速傾向について関心もたれていた。

米国経済の減速傾向について、今のところ直接的な影響が専門店の自転車販売に出ているわけではない、という話であった。従来は経済が悪くなっても、自転車販売にはそれほど影響が出たわけではなかったが、最近では高級ロードバイクの販売が専門店で増えており、これらの高級自転車を購入する人は、その職業層から景気変動により収入が減ってしまう可能性もある、一方でガソリン価格の高騰は米国人の多くに影響を与えており、同時に環境に対する意識が高まっていることから、通勤をはじめとする自転車の実用的使用が増えており、この方面の需要台数は増える可能性も考えられる、という話であった。通勤用自転車や一部のハイブリッド車やトレッキング車までも含んだ実用目的の、舗装路上を走る自転車は増加していく可能性が高い。これから始まる春需に注目が必要であると思われる。

ロードバイクの販売は、専門店の経路では増加傾向にはないようだ、とのことであった。しかし、ロードバイクは専門店にとって収益性が高いので、引き続き重要な商品であることに変わりはない。一方でマウンテンバイクは、前後サスペンション付のものやカーボンファイバー製フレームのものなどが専門店にとっては重要である。また最近では冬にスキー場で雪があまり降らないところが増えているため、夏は勿論、冬でもスキー場でマウンテンバイクに乗れるようにしているところも出てきているようで、これらのリゾート向けマウンテンバイクの需要増にも期待しているそうである。

また、米国でも最近では子供が外に出て遊ばなくなっており、自転車にもあまり乗らない傾向にあるという。自宅でパソコンに向かっている子供が増え、このことが自転車乗用に影響をもたらしているという。子供のうちに自転車に親しまないと大人になってからも自転車に乗らないので、この傾向は将来心配であるということであった。また、BMXに乗る子供もいるが、以前はBMX世代が大人になるとマウンテンバイクのほうに移行するという傾向が見られたものの、最近のBMXに乗る子供は、自転車にあまり乗り続けるということがないようで、ライダーとして育っていくか不安を感じているという話も聞いた。現在、米国の自転車専門店の顧客の多くは、ベビーブーマー世代の白人男性であり、この顧客層は次第に高齢化しているため、今後より幅広い顧客層を自転車専門店に迎え入れるために、努力をしていかななくてはならない、と真剣に話されていた。

5. 小売店の見学

今回も訪問都市で小売店の見学を行った。ポートランドでは前回シアトルで行われたNBDAセミナーで積極的な発表を行っていた有力小売店を訪問した他、ロサンゼルスではNBDA会員店を選び訪問した。

5-1 ポートランド 専門店 2月9日
B G 店



B G 店の外観

この店はポートランドの地域一番店である。市内に6店を持っており、熱心な自転車販売を行っている。11月にワシントン州シアトルで行われたNBD Aセミナーで、地元自治体に対し自転車乗用の重要性を訴求し、市の交通政策として自転車乗用を促進させるよう各種の働きかけを行っている点、及びサービス部門を充実させ、サービス部門で如何に収益を確保していくかという点について発表を行った店である。

今回は本店を訪問したが、地域一番店だけあって品揃えは大変豊富であった。各種完成自転車のほか、部品・付属品・ウェアまで何でも揃っていた。ブランド別ではトラックが多かった。またサービス部門も見せてもらったが、修理・品質保証各々別の担当者がいて、この方面が充実していることがうかがえた。また倉庫の中までも見せてもらったが、立派なものを持っており、この本店の倉庫から他の5店舗へ毎日トラックで配送しているということであった。



店の内部、玄関を入ったところ

完成車の販売傾向をたずねると、ロードレーサーはこの店では2年ほど前から増えてきている、という話だった。マウンテンバイクも減ってはいないということで、この他通勤用の自転車やトレーニング車も、自転車を実用にする人が増えているため伸びているという話であった。ロードレーサーは\$3,000から\$5,000くらいのもので沢山陳列されていた。医者や弁護士がこのような高級車を買うのかと思って購入者の職業をたずねたところ、特に片寄っているということはないそうであった。これは、最初エントリーレベルの自転車を使い始めた人が、次第により上級の自転車に買い換えていくためである。最初に自転車を使い始めた人を如何に大切に扱い育てているか、ということの証しであるという事で良いと思われる。このため自転車の販売に当たっては、顧客の体に合うよう徹底的な調整を行い、場合によっては2時間も時間をかける事もあるそうだ。勿論試乗は当然行ってもらおう。実際、訪問したときにも2人の顧客がハイブリッド車の試乗に出かけていったところであった。



完成車のコーナー 店の右奥に位置する



タイヤ、補修品のコーナー 店の左手前に位置する

サービス部門の充実に力を入れているこの店だけあって、冬場は特にメンテナンスに注力している。顧客に徹底的なオーバーホールを推奨しているほか、各店で顧客向けメンテナンス講座を開催しているそうである。

また、この店では毎週サイクリングを実施している。中には、女性だけのサイクリングというのも実施されており、女性が安心してサイクリングに参加できるよう配慮し、顧客層を広げる努力をしている様子が見えがえた。

5-2 ロサンゼルス近郊専門店 2月10日

H店

この店も規模の大きい専門小売店で、この地域で6店舗展開している。やはり\$5,000から\$6,000もする高価なロードレーサーが数多く陳列されていた。残りをマウンテンバイク、トレッキング、クルーザーなどが占めていた。但し、殆ど全ての車が値引きされていた。また地域の特性からか、通勤用の自転車はあまり目立たないかわりに、ビーチが近いクルーザーが多く見受けられた。



H店の内部、完成車のコーナー

店の人の話によると、この店はロードレーサーを得意としているということであった。また日本製自転車製品、特に日本製完成車を扱う気があるか尋ねたところ、日本製品は必ず売れる、沢山売る自信があるので高級な日本製品を持

ってきてほしい、と言われた。日本の完成車ブランドは品質イメージが大変良い、しかしかなり前に撤退してしまったので、今となっては80年代の思い出のような印象になっている。時間は流れているので、次第に人々の記憶から遠ざかってきているようにも感じられる、との感想も聞かれた。

I 店



I 店の外観

この店はビバリーヒルズの近くにある自転車専門店である。店の構えはそれほどでもない割に、土地柄からか高級車も多く取り揃えられていた。台数ではジャイアントとキャノンデールが多かったが、欧州ブランドも目立つところに陳列されており、例えばピナレロのロードバイクは\$9,000で販売されていたほか、コルナゴも数千ドルの値札がついていた。どの車もあまり値引きされていないのが印象的であった。

日本製部品も数社の製品を見つけることができた。

店の外観や内装の割りに顧客の数が非常に多く、従業員の全てが顧客対応に追われている様子が大変印象的であった。

6. 自転車道路の見学 2月10日、11日

この他、自転車道路の見学を行った。ロサンゼルス近郊のマンハッタンビーチでは、マウンテンバイクの他クルーザーに乗っている人の姿を多く見かけた。



マンハッタンビーチの自転車道

また、コスタメサという町の近くのバックベイという入り江に沿った遊歩道では、静かにマウンテンバイクやロードレーサーを楽しむ人が見られた。通りがかりの人の話によれば、この地区は全米で4番目に豊かな地区なので、高い製品が売れると思う、と話してくれた。



バックベイの遊歩道



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。